

第26回府中病院薬薬連携研修会アンケート結果集計

日時：平成29年3月11日（土）15:30～17:30

場所：セミナーホール

参加者：計23名（アンケート回収 14名）

テーマ①：『薬剤師が知っておくべき臨床検査値について』

～腎機能評価を中心に～

A：よくわかった（5人） B：だいたいわかった（8人）

C：あまりよくわからなかった（0人） D：わからなかった（0人）

未回答（1人）

【学生からのご意見】

・CL_{cr}を計算するだけで満足していたが、「年齢・体重・性別」を見て、CL_{cr}が正常でも気を付けて見ていくことが大切だと気付いた。CBDCAの等用量についてもよくわかった。

・なんでも計算式に当てはめるのではなく、補正など、患者によってやり方が違うことを学んだ。腎機能の値について全くわかっていなかったなのでこの機会に勉強出来て良かった。

・腎機能に応じた投与量について、よく理解できた。検査値の解釈の仕方（注意点など）についても教えて頂くことができ、勉強になった。

・これからは腎排泄の薬剤が減量されていたら、性別や体格なども意識していきたいと思った。

【実習施設および他施設からのご意見】

・腎機能に関する検査値について再確認出来た。

・検査値をどう見るか、勉強するか、活用するかが分からなかったため参加した。自分なりに取り組むための良いきっかけとなった。

・基準値の範囲でしか判断していなかったが、仕組みがよくわかったので、今後役立てたい。

・腎機能の過大評価について気を付ける点がよくわかった。

・保険薬局で薬剤師をしていると薬物動態まで深く考えないようになっており、これから勉強していかないといけないと感じた。特に化学療法の分野は難しいと感じた。

テーマ②：『地域医療機関と連携する退院時指導を目指して』
～お薬手帳を活用した退院時指導の充実化～

A：よくわかった（7人） B：だいたいわかった（7人）

C：あまりよくわからなかった（0人） D：わからなかった（0人）

【学生からのご意見】

・病院実習で退院時指導書の存在を知ったため、薬局でも見れていればよかった。薬局での扱われ方についても知りたいと感じた。

・手帳の大切さや、連携によって患者さんの安全につながるということを学んだ。自分の家族や周りにも手帳の重要性を教えてあげようと思った。

・地域の薬局との連携で取り組んでいることと、その成果を知ることができ面白かった。このような取り組みは病院間での共有や発表など広く普及するような動きは有るのでしょうか？

・薬局薬剤師と病院薬剤師間で退院時指導書に記載したい内容が異なっていたこと、また、薬局へのアンケートによって病院が指導書の記載内容を変更したことは薬薬連携を深めるために重要なことであると感じた。疑義照会の仕方や内容なども問題となることが多いので、アンケートを用いて改善を図っているということが大きな意味をなすと感じた。

【実習施設および他施設からのご意見】

・個人的には調剤方法などよりも、退院処方内容・検査値・入院時からの薬歴が必要かと感じている。患者からの聞き取りでは不十分なことが多く、和泉市の薬薬連携の取り組みは素晴らしいと感じた。

今後企画して欲しい内容などありましたら下記に記載してください。
(複数回答可・5名より回答)

